

## 九州国際大学研究者情報

### 基本情報

所属	現代ビジネス 学部 地域経済学科	氏名	牧 和生 Maki Kazuo
職名	准教授	E-mail	maki@cb.kiu.ac.jp
		ホームページ	

#### ■ 学歴・取得学位

2009(平成 21)年 3 月	青山学院大学経済学部第二部経済学科卒業 学士 (経済学)
2011(平成 23)年 3 月	青山学院大学大学院経済学研究科経済学専攻博士前期課程修了 修士 (経済学)
2014(平成 26)年 3 月	青山学院大学大学院経済学研究科経済学専攻博士後期課程修了 博士 (経済学)

#### ■ 主な職歴

2012(平成 24)年 9 月	青山学院大学経済学部 非常勤講師 (2014 年 3 月まで)
2014(平成 26)年 4 月	青山学院大学経済学部 助教 (2016 年 3 月まで)
2016(平成 28)年 4 月	青山学院大学経済学部 非常勤講師 (2018 年 3 月まで)
2018(平成 28)年 4 月	九州国際大学現代ビジネス学部 特任准教授 (2020 年 3 月まで)
2020(令和 2)年 4 月	九州国際大学現代ビジネス学部 准教授 (現在に至る)

### 教育活動

#### ■ 主な担当授業科目

○ 学 部：日本経済論、経済学、入門セミナー I、II、アカデミックライティング I、II、専門演習 I、II、III、IV
○ 大学院：

#### ■ 教育上の特記事項

○ 教科書・教材：
○ 教育活動：
○ 免許・資格：

### 研究活動

#### ■ 研究分野

研究分野	理論経済学、文化経済学、経済心理学 (行動経済学)、
------	----------------------------

	ホスピタリティ論、コンテンツ文化論（特に現代アニメ文化論）
主な研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サブカルチャーやオタク文化における経済学的研究およびその理論化を通じた新たな経済学の構築</li> <li>・文化における消費行動への非帰結主義的アプローチを用いた研究</li> </ul>
キーワード	オタク的消費、サブカルチャー、ホスピタリティ、共感、非協力ゲーム

■ 主な著書・論文等

<p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岡本健編著『コンテンツツーリズム研究 情報社会の観光行動と地域振興』（共著）福村出版、2015年.</li> <li>○岡本健編著『コンテンツツーリズム研究【増補改訂版】アニメ・マンガ・ゲームと観光・文化・社会』（共著）福村出版、2019年.</li> </ul>
<p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>牧和生</u>「共感をきっかけとする文化創造—アニメオタクの認知を中心に—」（単著）（査読あり）『青山社会科学紀要』第40巻第1号 pp.109-122. 2011年.</li> <li>○<u>牧和生</u>「新たな経済学の構築に関する展望」（単著）（査読あり）『青山社会科学紀要』第40巻第2号 pp.191-216. 2012年.</li> <li>○<u>牧和生</u>「文化経済学の理論的基礎」（単著）（査読あり）『青山社会科学紀要』第41巻第1号 pp.23-48. 2012年.</li> <li>○<u>牧和生</u>・中込正樹「ホスピタリティにおける期待と予測」（共著）（査読なし）『青山経済論集』第64巻第3号 pp.21-47. 2012年.</li> <li>○M. Nakagome, <u>K. Maki</u>, H. Fujimori, Y. Uekusa, K. Isa, H. Asano, Y. Baba, H. Tanaka and H. Ide "The Generation of Perception Gap and Ambiguity Aversion Under Uncertainty: An EEG Experimental Study of Contingent Negative Variation(CNV)"（共著）（査読なし） Working Paper Series, Institute of Economic Research at Aoyama Gakuin University. 2013年.</li> <li>○M. Nakagome, <u>K. Maki</u>, H. Fujimori, Y. Uekusa, N. Inoue, H. Asano, H. Tanaka and H. Ide "A Neuroeconomic Study on Nudge and Social Cognition Using an Electroencephalography"（共著）（査読なし） Working Paper Series, Institute of Economic Research at Aoyama Gakuin University. 2013年.</li> <li>○M. Nakagome, <u>K. Maki</u>, H. Fujimori and H. Ide "A Neuroeconomic Study of Herd Behavior in Financial laboratory Markets Using Brain Decoding Experiment Method"（共著）（査読なし） Working Paper Series, Institute of Economic Research at Aoyama Gakuin University. 2014年.</li> <li>○M. Nakagome, <u>K. Maki</u>, H. Fujimori and H. Ide "A Brain Decoding Analysis of Framing Effects on the Change in Characteristics of Herd Behavior in Laboratory Financial Markets"（共著）（査読なし） Working Paper Series, Institute of Economic Research at Aoyama Gakuin University. 2014年.</li> <li>○M. Nakagome, <u>K. Maki</u>, H. Fujimori and H. Ide "Our Choice of Cognitive Frames is Affected By the Frames of Others in Financial Economy: A Neuroeconomics Study Using Brain Decoding Methods"（共著）（査読なし） Working Paper Series, Institute of Economic Research at Aoyama Gakuin University. 2014年.</li> <li>○<u>牧和生</u>「文化概念の拡張とサブカルチャーおよびCGMにおける文化経済主体の創造性に関する研究」（単著）（査読あり）『青山社会科学紀要』第41巻第2号 pp.21-43. 2013年.</li> <li>○中込正樹、<u>牧和生</u>、堀健夫、水上英貴、平澤典男、石井信之「人は本当にアダム・スミスの道徳判断を行うのか?—ニューロエコノミクス実験による検証—」（共著）（査読なし）『青山経済論集』第65巻第4号 pp.61-86. 2014年.</li> </ul>

- 中込正樹、牧和生、堀健夫、水上英貴、平澤典男「公共財のフリーライダー問題へのデュアルプロセス・アプローチ：『2つの心』を持つ人間のニューロエコノミクス研究」（共著）（査読なし）『経済研究』第6号 pp.49-76. 2014年.
- 牧和生・藤森裕美・中込正樹「ホスピタリティへのニューロ・エコノミクスアプローチ—おもてなし概念を超えた他者理解としてのホスピタリティ像の確立—」（共著）（査読なし）『青山経済論集』第65巻第1号 pp.1-35. 2013年.
- M. Nakagome, K. Maki and H. Ide “Framing Effects Cannot Effectively Weaken Herd Mentality: Reconsidered”（共著）（査読なし）Working Paper Series, Institute of Economic Research at Aoyama Gakuin University. 2014年.
- 牧和生「文化を超えるホスピタリティに関する試論」（単著）（査読なし）『青山経済論集』第66巻第2号 pp.73-89. 2014年.
- 牧和生「認知論的文化経済学の学術的意義」（単著）（査読なし）『青山経済論集』第67巻第4号 pp.1-19. 2016年.
- 牧和生「光トポグラフィーを用いた脳科学的研究の文化経済学への応用—ホスピタリティに着目して—」（単著）（査読あり）『文化経済学』第13巻第1号 pp.25-35. 2016年.
- 中込正樹・牧和生「歴史民俗学的な視点に立つ心理的時間論の実験研究—貝原益軒による『心理的長寿』の知恵の認知的・脳科学的実験による再検討—」（単著）（査読なし）『青山経済論集』第68巻第3号 pp.243-263. 2016年.
- 中込正樹、小田切史士、牧和生「ともに働く人々の共感と自己拡大そしてアフォーダンス知覚の実験研究—「世界が新しく見えてくるとき」を考える—」（共著）（査読なし）『経済研究』第9号 pp.59-86. 2017年.
- 中込正樹・牧和生「贈与社会から市場経済への歴史的シフトのニューロエコノミクス実験研究」（共著）（査読なし）『青山経済論集』第70巻第2号 pp.81-93. 2018年.
- 牧和生「コンテンツツーリズムへの批判と展望」（単著）（査読なし）『国際・経済論集』第3号 pp.99-120. 2019年.
- 牧和生「文化における『意味』の役割」（単著）（査読あり）『文化経済学』第16巻第2号 pp.4-9. 2019年.
- 牧和生「コンテンツ文化におけるホスピタリティの重要性—経済学とコンテンツ文化（コンテンツ文化史）の邂逅—」（単著）（査読無し）『国際・経済論集』第5号 pp.121-140. 2020年.

学会発表

- 牧和生「『文化』概念の再検討と実験的アプローチの可能性」（単独）文化経済学会2011年度秋の講演会、（於：青山学院大学アスタジオ）2011年.
- 牧和生「オタク文化における共感という解釈について」（単独）コンテンツ文化史学会2011年大会（於：東京大学）2011年.
- 牧和生「コンテンツ文化史研究が経済学にもたらす意味」（単独）コンテンツ文化史学会2012年第2回例会（於：芝浦工業大学）2012年.
- 牧和生「コンテンツ文化と記憶—限定合理性の経済学の観点から—」（単独）コンテンツ文化史学会2012年大会（於：明治大学）2012年.
- 牧和生「コンテンツ・ツーリズムから見る文化と心理のあり方」（単独）文化経済学会2012年度大会（於：熊本大学）2012年.
- 牧和生「光トポグラフィーを用いた脳科学的研究の文化への応用」（単独）文化経済学会2014年度大会、於：松山大学、2014年.
- 牧和生「コンテンツとホスピタリティ—共存・共栄のコンテンツ文化を目指して」（単独）コンテンツ文化史学会2014年大会（於：東海大学）2014年.
- 牧和生「こだわり、共感およびホスピタリティと文化に関する認知科学的試論」（単独）文化経済学会2015年度大会（於：駒澤大学）2015年.
- 牧和生「アートを対象とした人の主観的感覚と理性・行動の関連」（単独）文化経済学会2018年度大会、特別セッションパネリスト（於：同志社大学）

その他

○牧和生 書評 岡本健著『「n次創作観光 アニメ聖地巡礼/コンテンツツーリズム/観光社会学の可能性」(単著)(査読あり)『コンテンツ文化史』第8号、pp.102-105.2013年.

■ 大学就任以前の主な業務上の実績

	特になし
--	------

■ 主な所属学会

文化経済学会〈日本〉	コンテンツ文化史学会
------------	------------

■ 受賞等

2011(平成23)年11月	若手研究者研究発表奨励賞 優秀賞(「文化」概念の再検討と実験的アプローチの可能性)(文化経済学会〈日本〉)
2015(平成27)年10月	FD活動による学長表彰(担当科目:マクロ経済学)(青山学院大学FD委員会)
2016(平成28)年10月	FD活動による学長表彰(担当科目:経済学入門)(青山学院大学FD委員会)

■ 研究助成金による研究

○ なし
------

### 社会における活動等

○ 文化経済学会〈日本〉関東支部支部長(2012年9月~2018年3月)
○ 文化経済学会〈日本〉関東支部支部長代行(2018年4月~現在に至る)
○ 文化経済学会〈日本〉研究大会プログラム委員(2014年7月~2018年7月)
○ 文化経済学会〈日本〉理事(広報担当)(2016年4月~現在に至る)
○ 文化経済学会〈日本〉学会誌編集委員(2018年11月~2019年10月)
○ 文化経済学会〈日本〉学会誌編集主幹(2019年10月~現在に至る)

### 大学運営活動等

○ 教育情報ネットワークセンター運営委員
○ 入門セミナー担当幹事
○ 九州国際大学現代ビジネス学会『国際・経済論集』編集委員長
○ ウェイトリフティング部顧問